

会 議 録

会議の名称	第二回上尾市産業振興ビジョン策定委員会
開催日時	平成25年2月28日(木) 午後1時30分～午後3時40分
開催場所	プラザ22第二会議室
議長(委員長)氏名	河藤 佳彦
出席者(委員)氏名	山崎好信、大木保司、青木幹二、小川 均、黒澤 久、近藤博昭、山口栄二、黒澤 治、和田正憲 (10名)
欠席者(委員)氏名	野崎 実、神田隆雄、久保埜良幸、今村至孝、小谷野茂、小川厚則、尾崎俊治 (7名)
事務局	商工課：小幡、榮、大上 農政課：佐藤、山田
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成24年度活動報告について (2) 上尾市の産業の現状と課題について (3) 上尾市産業振興ビジョンの基本方針について (4) 上尾市産業振興ビジョンの将来都市像について (5) 次年度の検討事項(案)及びスケジュール(案)について (6) その他 4. その他 5. 閉会
会議資料	<p>資料1 平成24年度活動報告</p> <p>資料2 上尾市産業の現状と課題、基本方針、将来都市像、次年度検討事項(案)</p> <p>資料3 事業者アンケート結果、策定委員・事業者・団体ヒアリング結果</p> <p>資料4 今年度報告書の目次(案)</p> <p>資料5 上尾市産業振興ビジョン策定スケジュール(案)</p>

1 開会

事務局：○本会議の開会を宣言。

○資料の確認。

○資料2について一部訂正。P.8のグラフ「事業所数及び年間商品販売額の推移」の年間商品販売額の単位「億円」→「百万円」に訂正。

○本日は委員10名出席で過半数に達しているので、策定委員会設置要綱の第6条2項に基づき本日の会議が成立することを報告。

2 委員長挨拶

事務局：議事に先立ち、委員長からご挨拶をお願いしたい。

委員長：今回、第2回の産業振興ビジョン策定委員会の開催となる。前回の策定委員会から今日に至るまでに、4回の作業部会が開催され、ヒアリング調査やアンケート調査を行ってきたとのことである。本日の議事は、作業部会での議論の結果を踏まえて進行していきたい。

上尾市は多様な産業が関連しあい、それぞれの企業は自立性、競争力を高めながら進展してきた。これからの産業振興においては、ブランド力を高めることが重要であると認識している。このビジョンを実効性の高い内容とするため、本日の議論では、忌憚のないご意見をお願いしたい。

3 議事

(1) 平成24年度活動報告について

委員長：議題(1)、(2)については、事務局から続けて報告願いたい。

事務局：資料1にもとづき説明

○作業部会の活動について、10月中は策定委員に対するヒアリングを実施。

○11月以降は、企業や団体を対象にヒアリングを実施。(3月1日、農業生産法人榊ナガホリにヒアリング予定である。)

○現在、農業者及び消費者に対するアンケートを実施中。

○農業者アンケートは、農家台帳から抽出した406農家を対象にアンケートを送り、226農家から回答を得た。有効回答率は55.66%である。抽出にあたっては、「75歳以下」「年間150日以上農作業従事」「経営耕地面積500㎡」という条件で絞り込み、無作為抽出を行った。

(2) 上尾市の産業の現状と課題について

事務局：資料2にもとづき説明。

○既存データ、ヒアリング結果、アンケート調査結果等から、現状と課題をまとめた。

・歴史と土地利用	・人口	・産業構造	・農業
・商業	・工業	・観光	

委員長：産業振興ビジョンを検討していくにあたり、現状と課題について共通認識を持つことは重要なことである。委員のみなさまから、ご意見をいただきたい。

委員：農業について、“農産物の販路として「農産物直売所での販売」の割合が高まっている”とあるが、直売所での販売収入が農家の収入においてどのくらいの割合を占めるのか。

委員長：農家の収入に占める直売所販売の割合のデータがあれば、事務局で確認してほしい。

事務局：今この場にデータは持ち合わせていないが、JA組合長へのヒアリングによると、直売所での販売に限らず庭先販売も増えているとのことである。また、第1種兼業農家（農業所得を主とする兼業農家）よりも第2種兼業農家（農業所得を従とする兼業農家）の割合の方が高まっている。

委員：ある大型店舗では、地域の農家が値段を設定して出荷できる直売コーナーを設けている。店に支払うべき費用は発生するが、農家はその条件をクリアできるならば、上尾でも同じ取り組みが可能であると思われる。

委員長：直売所販売については、今は割合として小さくても今後注目すべき取り組みという見方もできる。それに関連して、大型店が農産物販売をサポートしているという事例もあるとのことである。

委員：販路開拓については、今後は新しいチャンネルも必要となるだろう。

委員：工業について、平成元年から平成22年にかけて、工場数は4分の1近くにまで減少しているのに、従業員数の減少は約2分の1にとどまる。これは、小規模工場が減少したためであると考えて良いか。

事務局：平成元年以降、工場数、従業員数が減少しているのは、バブル経済の崩壊の影響を受けたことと、相次ぐ不況によるものと考えられる。また、ご指摘のとおり、中小規模の工場数が減少したという現状があると認識している。

委員：業種別では、金属製品製造業が多いとのことであるが、素材革命（従来の金属材料に替わる、軽量化や硬度の強化が図れる新素材の開発・誕生）が進んでいる今も、相変わらず金属製品製造業が多いのだろうか。

事務局：平成22年の工業統計によると、金属製品の工場数は39工場で最も多く、次に輸送用機械器具33工場となっている。

委員長：輸送用機械器具は、ほとんどが自動車関連である。

委員：素材革命が進んだといっても、やはりエンジンをプラスチックで造るわけにはいかない。もっとも今後は素材の代替も進んでいくものを思われる。

委員長：商業の観点からは、いかがであろうか。

委員：友人で、退職後に農業を営み、数名の農業者仲間と共同で空き店舗を借りて直売所を運営している人がいる。大型店舗での販売場所の確保や直売所も数カ所あることから、これを活用することによって、八百屋が少なくなった余地を埋められるのではないか。

委員長：空き店舗の商業活用は、重要な課題であるが、現実には難しい点もある。今後の課題として考えていきたい。

委員：上尾駅西口で進行中の民間開発を1つのチャンスととらえ、中心市街地活性化につなげていきたい。

委員：6次産業化を目指す動きは、全国的にみられる動きであるが、個別ではなかなかスムーズには進まない。しかし、農家にも「挑戦する」という意識改革が必要であると思う。リスクはあるかもしれないが、得るものも大きいということ呼びかけながら、進めていかなければならないと認識している。

副委員長：農産物直売所というと大規模なイメージがあるが、実際には、自分の家の庭先で作物を販売する人が多い。また、観光農園を経営する人もいたり、若い人の中でインターネット販売などを手がけたりするなど、農業については、これからは期待が持てる。10年後20年後にどのような形になるかわからないが、商業も農業も、地元の人が市外の人に「どうぞ」と堂々と勧められるようなものが育ってほしい。

一方、上尾市では季節ごとに1回は何かしらのイベントを開催しており、毎回たくさんの人で賑わう。こうしたイベントがもっと広くPRされれば、消費も変わってくる。そのようなところまで、政策提言できたら良いと思う。

委員長：これまでの意見をまとめると、農業は直売所のほかにもインターネット販売という販路も考えられる。また、観光との連携もありうるということ。

各産業の課題をまとめると、農業については直売所の問題、工業は中小企業振興支援、商業は空き店舗の活用、また、農業と商業の連携も必要である。

個人的な意見として、商業に関しては地域の個性に応じた活性化方策の検討も必要であると思う。上尾駅前には大規模小売店舗があり、人をたくさん集めている一方で、住宅地エリアでは生活に密着した商店街があり、それぞれの個性を持っている。中心市街地の活性化では、大規模小売店舗との共存が重要となるが、生活に密着した商店街の活性化という視点も必要と思われる。

(3) 上尾市産業振興ビジョンの基本方針について

事務局：資料2のP.16、P.17を説明。

○現状と課題をふまえて、3本の基本方針「①新たな交流・連携の推進」、「②ブランド化の推進」、「③既存の産業のバージョンアップ」をまとめた。

○「各産業分野の目指すべき姿」をまとめた。

委員長：上尾市産業の現状と課題を踏まえて、産業振興の方向性を打ち出していただいた。ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委員：4点ほど、気づいた点を挙げたい。

◆基本方針の「①新たな交流・連携の推進」に関して、景気の低迷で厳しい状況におかれているとしながら、なぜ「交流・連携」につながっていくのかわかりにくい。

- ◆また、「交流や連携の活動の強化が求められるように…」とあるが、誰から求められているのか。実効性のあるビジョンにしていくためには、推進する主体が誰・どこなのかを明確にした方が良いのでは。
- ◆①～③の文章の表現について、①では最後の行を「～することにより、～を目指します。」のように表記しているが、②では「～します。」という終わり方になっている。できれば、①のような表記の仕方が好ましい。
- ◆P.17の(2)各産業分野の目指すべき姿は、何年後の姿を想定しているのか明確でない。

委員長：これらの質問に対し、作業部会で行われた議論なども踏まえて、事務局から回答していただきたい。

事務局：「交流・連携」が必要であるということは、ヒアリングを通じて、商業者も工業者からも出された意見である。厳しい状況の中で、自社だけが努力をしても難しいため、業界や地域など全体として取り組んでいく必要がある。

委員：商業者の立場からの意見としては、日ごろから、同業者間で話をする機会が多いが、あまり面白い発想が出てこない。しかし、工業者と話す機会があった時、新鮮な視点で意見をもらえたということがある。様々な立場の人と話す、新たなヒントをもらえるということで、「交流・連携」が必要なのである。

委員：これまでも各産業分野では、ビジョンづくりなども含めて色々取り組んできた。しかし、分野横断的な対話の場所はこれまでになかった。話を進める中で、たとえば、工業団地の中で周辺の商店街のチラシを配布するなど、分野を乗り越えるというイメージで連携する場所や機会が必要であると思った。

委員長：分野横断的な場の設定が必要であるというご意見をいただいた。ほかにいかがだろうか。

委員：「誰が」やるのか、ということが書いていない。本来が一番重要な点である。行政がやるのか、市民がやるのか、前段階でスタンスが明確になっていないと具体的な検討に入れない。

委員長：今までの意見で共通していたのは、「誰が」やるか、ということ、推進の具体的な対象を明らかにしておきたいということであった。また、文章表現の仕方についての意見もあげられていたが、これから精査していくという認識でよろしいだろうか。

事務局：作業部会においては、何を指すかということまでは議論が進んでいなかった。明確に文章で表現できなかつた。ブランド化については、商業、観光の振興に関連すること、工業におけるブランド化では意味合いが違う。もう少し作業部会における議論を継続させていただきたい。

委員：上尾市の周辺においては、大宮、菖蒲などに大規模商業施設が進出し、消費者が流出している。流出を止めるため、既存の工業者、商業者へ求めていけるのは行政しかできないことであると考えている。

委員：3点ほど、気づいた点を挙げたい。

- ◆若者と女性の活躍の促進について、検討してほしい。女性の活躍の促進には、出産退職後に職場復帰するための取り組みと創業支援がある。特に、女性の創業は小規模なものが多いが、地域密着型で地域にとって良いものが多い。
- ◆(株)ナガホリの良い所は、分散している遊休地を活用して、高齢者に働いてもらっている点で、良い取り組みと思われる。農業分野の目指すべきところとして、(株)ナガホリのような取り組みを推進するかどうかを検討してほしい。
- ◆上尾市内の人口分布を1 km 四方単位で把握及び分析してはどうか。一般的には、人口のドーナツ化現象が進行しているといわれているが、これまでの人口分布を比較するとその状況がわかる。地域商業とコミュニティとの連携が現在どうなっているか、可能ならば分析してほしい。

委員長：国勢調査のメッシュデータの利用を検討してはどうか。分析が可能であれば調査の内容に含めて、難しいようであれば、今後の課題としてあげておいていただきたい。

委員：「交流・連携」に関して、景気が低迷している中で、交流・連携に至る前に個々の商店、工場がつぶれてしまったら意味がない。交流・連携の前段階で、何かすることがあるのではないか。

委員：2点ほど、気づいた点を挙げたい。

- ◆中心市街地活性化については、一部の商店にとっては有効な施策であると思うが、商店街全体を活性化させることにはつながらないと感じる。そのあたりについて、一歩踏み込んで考えてほしい。
- ◆理想像を組み立てていくと、このような基本方針になるのだろうが、実態はもっと深刻化しているので、実状に即した形にしてほしい。

委員長：個別に対応する必要がある、という意見があげられた。

副委員長：業種業態によって、問題は複雑かつ多様である。現状は企業、商店をつぶさない方法を考えることが重要である。どのように維持していくかということが根本的な問題であって、それを基本施策に盛り込んでいくことが必要とされている。もっと業種業態ごとにヒアリングを行って、施策を考えていくことがよいと思われる。

委員長：個人的な意見を述べると、まずは今ある産業、事業者をサポートして、自立性、競争性をいかに高めていくかが重要である。自立し、競争力を持った事業者が、交流・連携することで、相乗効果が上がっていく。基本は、個々の中小事業者が、それぞれの基盤を固めることから始まる。基本方針では、「既存の産業のバージョンアップ」が先にあって、次に「新たな交流・連携の推進」につながると思う。

(4) 上尾市産業振興ビジョンの将来都市像について

事務局：資料2のP.18を説明。

作業部会における議論と、現状と課題、基本方針を踏まえて上尾市の産業を振興した先にどのような姿があるかと考えた。ここでは、4つの案を提案したい。最終的には、本日、皆さんからいただくご意見を踏まえて、市長と協議して決定したいと考えている。

委員長：4つの案を提案していただいた。本日は、この案に対して優先順位をつけるということではなく、内容の議論というかたちで進めたいと思う。

委員：上尾市の既存の計画のキャッチフレーズには、どのようなものがあるか。

事務局：第5次上尾市総合計画の将来都市像では、「笑顔きらめく“ほっと”なまち あげお」としている。

委員：元々、若者や若い夫婦が集まってくるような政策を上尾市が持っているのならば「人が集まり、…」という将来都市像でもいいが、果たしてそのような政策を持っているのだろうか。

委員：ここに提案された4案は、「産業」という言葉が抜けてしまえば一般的な表現ばかりである。直接的に「産業」を言い表す表現が入っていない。「人が集まり、…」というフレーズも、産業構造を変えても人を集めようという気持ちが感じられない。農業、商業、工業、観光の4産業にどれだけ魅力あるのかということ表現すべき。

委員長：先の議論で「新たな交流・連携の推進」よりももっと重要なものがあるという意見があげられていた。このことについて、個人的な意見を述べると、具体的な内容を書き込んでいく形で補完して、それも含めて一体化してとらえれば良いと思う。耳に入ってきやすいフレーズを設定して、印象的かつ象徴的なイメージをもてるようにするという取り組みは良いと思う。ただし、もう少し詳しく書き込んだ方が良いと思われるが、どこまで書くかは悩ましいところ。

委員：他地域での工場移転の話などを聞くと、「働いている人が笑顔で働ける」ということは重要な視点だと思う。

副委員長：経営者は、働く人を重要視する。本来は、住んでいる所に会社や商店がある「住職接近」が一番望ましい。実際には30代や40代が、これからの時代を継承していくことになることを考えると、将来都市像は、夢が持てるような言葉がいい。ここに提案されている中から選ぶとすれば、「ワンランク上のあげおをめざして」が良いかもしれない。一方、もう少し上尾市本来の姿に近づけてもいいと思う。5万人前後しか人口がいなかった町が、色々な人たちの手によって成長してきた経緯がある。こうしたことも踏まえても良いのでは。

委員：もう少し大胆に表現してもいいのではないだろうか。他のまちにはない産業ミックスをやっていくという姿勢を強く打ち出してもいいと思われる。

委員：かつて、商工会議所がテレビ番組に上尾市を取りあげてもらおうと運動したことがあったが、街に魅力がないとして企画が実現せず、非常に悔しい思いをしたことがある。今度は取材を依頼されるくらいの街をつくっていききたい。また、飲食はまちの活性化の起爆剤となっている。たとえば、街コン、B級グ

ルメなどがいい例である。飲食関連には、今まで以上に力を入れていく必要がある。

委員：文化や観光は、消費や経済が伴わないと廃れてしまうと感じている。飲食は、人を集めるコンセプトの中では一番大きな要素である。これを一言で表現できるような将来都市像を描けたら。

委員長：将来都市像は今回の会議で決定しないといけないだろうか。

事務局：今後、ビジョンを検討していく中で、特徴的な施策が出てきた時に、それに関連して将来都市像を修正する必要性もあると考えている。

委員長：スケジュールの都合はいかがだろうか。決定しないと、ビジョン策定の進行に差し支えるということはないだろうか。可能であれば、もう少しビジョンの全体像が見えてから、あらためて議論した方が良いと思われるので、将来都市像については議論を継続していくというのはどうか。

事務局：策定委員会でその方法を選択するというご了承をいただければ、問題ない。しかし、基本方針については今年度決定したうえで、来年度の役割分担や推進体制等の検討をしていきたい。

市議会でも本ビジョン策定についての関心が高いので、これまでの成果を報告したいと考えているため、基本方針は決定したい。

委員：産業分野ごとの目指すべき姿は提示されているが、総合的な目指すべき姿が提示されていないので、将来都市像が今ひとつ絞りきれないのだと思われる。次回の委員会までには、総合的な目指すべき姿を検討しておいていただきたい。

委員長：それでは、将来都市像については今後も継続して検討していくということでご了承いただきたい。基本方針については、交流・連携以前に必要なことがあるという議論が交わされた。項目としてはこれで良いが、相互関係をもう少し整理するというのと、個別対応が必要ということ盛り込むということによりしだいだろうか。

全委員：異議なし。

委員長：では、そのようにお願いしたい。次の議題に移りたい。

(5) 次年度の検討事項（案）及びスケジュール（案）について

事務局：資料2のP.19を説明。

○基本方針に基づく施策案として提案。

委員：若者と女性の活躍についても、この項目の中のいずれかに入れてほしい。

委員：「ブランド化の推進」について、事業者が商品のブランド化に取り組もうとする時に、行政が専門家を派遣したり、そのための助成を行ったりするなど、踏み込んだ事業を実施する予定はあるのだろうか。

事務局：現在の段階では、事業の具体化はしていない。それぞれの主体「誰が」やるかが大事なので、まずは実施主体を明確化することから始めたい。

委員：役割分担は必要である。行政は、ビジョンを作るだけではなく、具体的にどの

ように民間事業者に力を貸せるのか、明確にするべきで。明確なイメージを提示しないと、誰も取り組めないだろう。

事務局：ビジョンが行政の目標ではなく、各産業のいろいろな主体と一緒に作っていくということを明確にイメージできるようにしていきたい。

委員：将来につながる施策として、創業支援と後継者育成を入れてほしい。

委員長：これまでの議論から、本ビジョンを具体的なアクションプログラムにしたいということが皆さんの希望であると認識している。一方で、これは計画なので、予算との兼ね合いもある。計画と個別事業の関係についてはギリギリまで議論していきたい。続いて、スケジュールについて事務局に説明をお願いします。

事務局：今後のスケジュールを説明。

○今年度の策定委員会は、今回が最後となる。

○報告書の完成は3月中には間に合わないので、6月議会に提出することになる。

○4月から、来年度の作業部会の活動を開始する。

○策定委員会は7月頃開催したい。

○年内中にビジョンの素案を策定委員会で報告し、その後調整してからパブリックコメントを行う。

○次回の策定委員会開催については、なるべく早くご連絡したい。

委員：ビジョンに先んじてスタートできる事業があれば、すぐにスタートさせた方が良い。

委員長：そのことについては、後ほど事務局から報告する事項があるとのことである。以上をもって、本日の議事については、以上で終わりとなる。本日の議事進行におけるご協力に感謝いたしたい。

事務局：○農業者アンケートについては、後日冊子で結果をまとめる予定である。完成したらお手元に送付する。

○報告書については、資料4に目次案を掲載している。また、資料2、3が報告書のイメージとなる。今年度の報告書は、今年度の活動報告であって、最終的なビジョンについては、来年度完成するものである。

4 その他

事務局：副委員長から視察等について報告がある。

副委員長：2点ほど、報告を行う。

- ◆2月8～9日の日程で、商工会議所役員を中心とした15名で、河藤委員長のご協力のもと、八尾市の中小企業サポートセンターを視察した。八尾市は製造業者3,000社強、製造品出荷額等は約1兆4,300億円を誇る、工業のまちである。産官学連携の体制が確立されており、商工会議所や行政は事業のサポートを行い、学校は技術支援を行うなど、それぞれの役割が明確化している。八尾市の良いところを取り入れながら、上尾市のビジョ

ン策定に活かしていきたいと考えている。

- ◆2月19日、市議会の文教経済委員会のヒアリングが行われ、商工会議所の幹部職員が対応した。議員の皆様には、市内産業の現状を理解していただきたいと伝えたとのことである。

事務局：ほかに何かあればお願いしたい。

委員：繰り返しになるが、ビジョンのテストケースとして進められそうな事業があれば、ぜひ動いてほしい。

事務局：今のご意見に関連して、平成25年度の事業について2点ほど報告する。

- ◆「上尾スイーツ開発事業（仮称）」を予定している。市制施行55周年を迎えるにあたり、上尾市出身の的場浩司氏から「一緒にできることがあれば協力したい」という申し入れをいただいた。芸能界きってのスイーツ通である的場氏の協力を得て、「スイーツでまちおこし」という事業を計画している。商工会議所と市内の洋菓子店、和菓子店、及び農業団体と協力して進めていく予定である。現段階ではスイーツの販売時期や販売場所は未定だが、東口再開発ビル内の公共スペースや上尾駅で販売できれば、と考えている。
- ◆「中心市街地活性化イベント事業（仮称）」を予定している。平成25年6月に新たにショッピングセンターがオープンする予定であるが、それにとともに中心市街地への影響が懸念されている。そこで、上尾駅を中心として東口、西口の店舗が一体となって、イベントを開催するものである。また、上尾中央医科グループのバレーボールチーム「上尾メディックス」が2部リーグで首位にたっており、Vプレミアリーグへの昇格も期待されているので、チームを盛り上げるためのイベントも同時開催予定である。

5 閉会